

研究課題名	ロボット支援下手術における 8mm ポート創部におけるポートサイトヘルニアの検討
研究の意義・目的	近年、様々な分野でロボット支援手術の普及が進んでいる。手術症例数が増加するに伴い、腹腔鏡手術に伴う合併症とは異なる、ロボット支援下手術特有の合併症を評価する必要がある。10mm以上のポート部位の筋膜縫合は推奨されているが、5mmポート部位の筋膜縫合は通常行われていない。Da Vinci手術では腹腔鏡手術では用いない8mmポートを使用するが、これはDa Vinci特有の大きさであるため、筋膜閉鎖を行う必要性が議論されており、一定の見解には至っていない。本研究において、当院で2020年から2024年までに消化器外科・肝胆膵外科・婦人科・泌尿器科で行われた、Da Vinciを用いた腹部手術におけるポートサイトヘルニアの実態を検討することにより、ポートサイトヘルニアの頻度・発生しやすい患者背景・ポート部位などを解明することを目的とする。
研究を行う期間	研究期間の長の研究実施許可日～2030年3月31日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2020年4月～2024年3月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器外科・肝胆膵外科・婦人科・泌尿器科で、ロボット支援下による腹部手術を受けた入院患者様が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ・患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、併存疾患、診断名。 ・検査結果：血液学的検査、画像検査(X線、CT、MRI)。 ・手術内容：術式、ポート数、ポート配置、手術時間、出血量、術後合併症。
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器外科学で行います。 【研究責任者】前田 清
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。

連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 消化器外科 担当者氏名：前田 清 電話番号：06-6645-3835
------------	--